

# 岡山県の地震

## 令和7年(2025年)2月

### 目 次

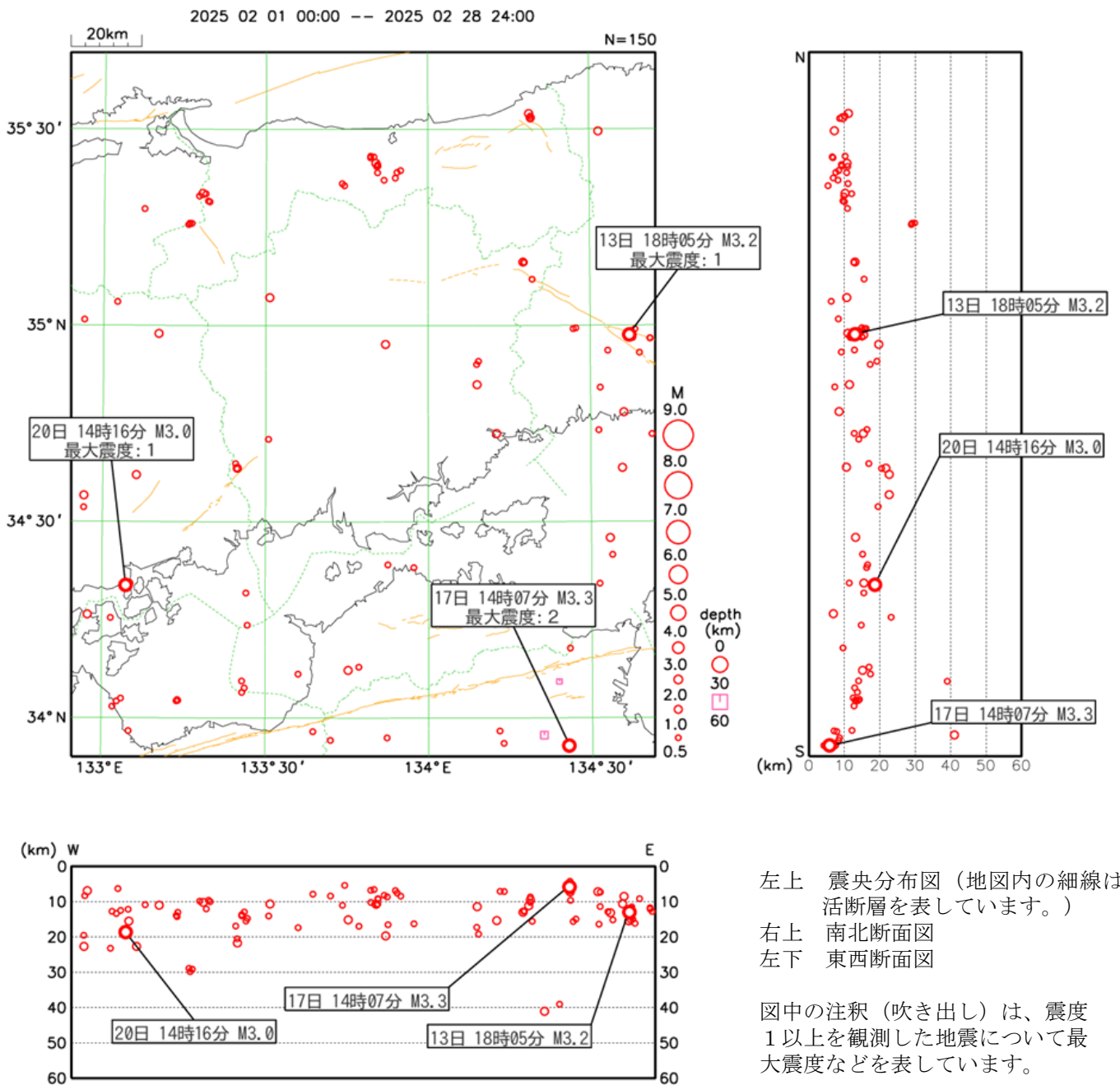
|                           |     |
|---------------------------|-----|
| ○岡山県及びその周辺の地震活動（2月）       |     |
| 震央分布図及び断面図                | … 1 |
| 概 況                       | … 1 |
| 岡山県において震度1以上を観測した地震の表     | … 2 |
| 岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図 | … 3 |
| ○地震防災メモ No.230            |     |
| 南海トラフ地震関連解説情報について         |     |
| ～毎月開催する評価検討会の公表資料～        | … 4 |

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
  - この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
  - 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

## 岡山地方気象台

# 岡山県及びその周辺の地震活動(2月)

## 震央分布図及び断面図



## 概況

### 2月の概況

- ・ 2月に震度1以上の揺れが観測された、上図の範囲内の地震は3回 (前月: 0回) でした。
- ・ 岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は2月中は1回 (前月: 1回) あり、そのうち震央が上図の範囲内の地震は0回、範囲外の地震は1回でした。

## 岡山県において震度1以上を観測した地震の表(2月)

2025年02月28日15時29分 高知県中部

33° 41.1' N 133° 38.8' E 36km M3.8

----- 地点震度 -----

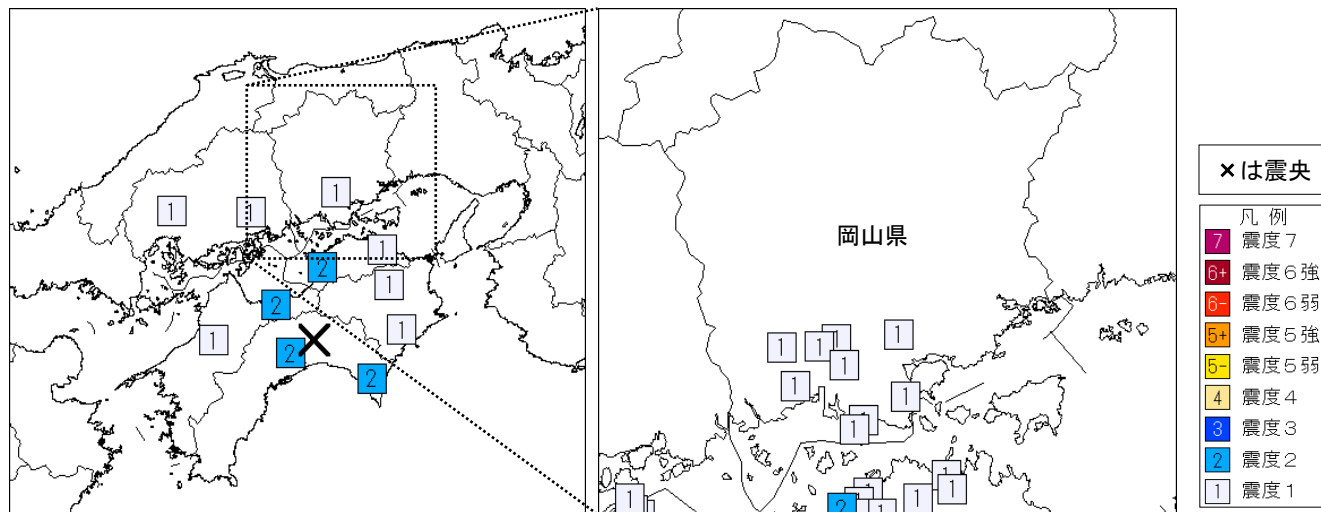
岡山県 震度 1: 倉敷市下津井\*, 倉敷市白楽町\*, 倉敷市真備町\*, 倉敷市児島小川町\*, 玉野市田井\*,  
総社市清音軽部\*, 矢掛町矢掛\*, 浅口市金光町\*, 岡山北区新屋敷\*

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。  
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。
- 2 地名に\*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。  
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

## 岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(2月)

2025年 2月28日15時29分 高知県中部の地震

岡山県及び周辺観測点の震度分布



### <地震の概要>

28日15時29分 高知県中部の地震（深さ36km、M3.8）により、香川県多度津町・三豊市、愛媛県西条市、高知県安芸市・高知市で震度2を観測したほか、中国・四国地方で震度1を観測しました。岡山県では、倉敷市、玉野市、総社市、矢掛町、浅口市、岡山市で震度1を観測しました。

## 南海トラフ地震関連解説情報について ～毎月開催する評価検討会の公表資料～

気象庁では、南海トラフ全域を対象として地震発生の可能性を評価した結果を発表するにあたり「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」(以下、「評価検討会」という。)を開催しています。評価検討会には、観測データに異常が現れた場合に南海トラフ地震との関連性を緊急に評価するための臨時の会合と、平常時から観測データの状況を把握するために毎月1回開催している定例の会合があります。今号は定例の会合についてのお話です。

### ◆南海トラフ沿いで観測される現象

南海トラフ地震の監視領域(図1)(以下、「監視領域」という。)では、南海トラフ地震臨時情報を発表するような異常な現象との判断に至らないまでも、規模(マグニチュード)の小さな地震や低周波地震と呼ばれる体を感じないような地震が日々刻々と観測されています。

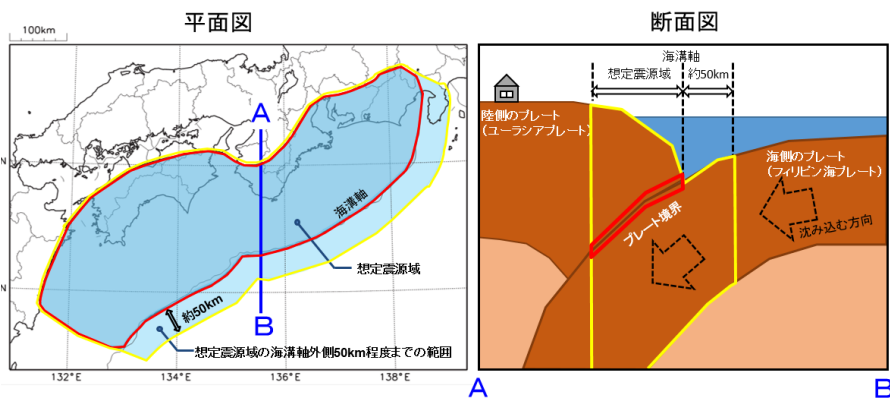


図1: 南海トラフ巨大地震の監視領域

図2は、本年3月7日に開催された定例の評価検討会の資料から抜粋した監視領域における地震活動等の状況です。

監視領域では規模の小さな地震(図の星印★)が発生しています。

また、東海地方から豊後水道にかけて低周波地震(図中の青印●)が観測されています。その周辺ではゆっくりすべりとよばれる、ゆれも津波も起こさずにプレート境界がごくわずかにずれ動く現象(図中の赤印□、黄印○)が観測されています。

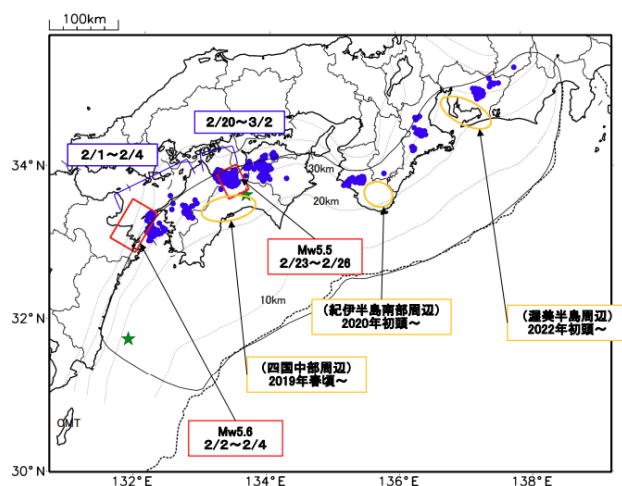


図2: 南海トラフ周辺の地震活動等の状況  
(2025年2月1日～3月5日)

この図を毎月確認することで、南海トラフ周辺における直近の地震活動等の状況を知ることができます。

### ◆検討結果の公表について

評価検討会の検討結果及び資料は、会合終了後に気象庁ホームページの報道発表で公表しています。

○令和7年3月7日公表 南海トラフ地震関連解説情報について

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2503/07a/nt20250307.html>